

県医師会の動き

副会長 吉本 正博

日本語はカタカナのおかげで表現に幅ができています。外国人の名前や外国の地名は、ほぼ発音通りに表現できますし、これが外来語だということが一目瞭然にわかります。しかし、最近はあまりにも安易にカタカナ文字を使いすぎるように思います。平成 29 年度の日本医師会事業計画（案）にも、ヘルス・リテラシー、プロフェッショナル・オートノミーという文言が使われていて、財務委員から一般会員にはわかりにくいのではないかと指摘があり、修正を余儀なくされています。一般人も使い始めているので今さら指摘するのには躊躇がありますが、ワーク・ライフ・バランス、メタボリック・シンドローム、ロコモティブ・シンドロームはカタカナ文字でなくても良かったのではないかと思いますし、メディカル・コントロール、フレイルという言葉は、どのくらいの人がその意味を理解しているのでしょうか？“economy”を「経済」と訳した人は本当にエライと思います。

3 月 17 日（金）に県庁で山口県周産期医療協議会が開催され、藤野俊夫 監事が委員として出席しました。山口県の周産期死亡率は全国 17 位とのことですが、毎年 50 人前後の母体死亡が発生しています。2015 年に「日本母体救命システム普及協議会」が設立され、母体救命のための実践教育が行われていますが、研修に用いる「医療マネキン」を「周産期医療施設設備整備事業」で購入してほしいと要望したとのこと。山口県医師会医事案件調査専門委員会にも母体死亡の事案が上がってくる場合があります。分娩の現場では、仮死状態の新生児と大量出血の母体を同時に治療を行わないといけない状況が発生することがあり、医師が一人しかいない場合には、その対応

に苦慮するのではないかと思います。母体救命のための研修が行われていることは今回初めて知りました。

3 月 19 日（日）に日医会館で日医学校保健講習会が開催され、濱本史明 副会長と船津浩彦 理事が参加しました。当日は 2 つの講演のほかに 2 つのシンポジウムが行われました。シンポジウム①は「運動器検診の円滑な実施を目指して」、シンポジウム②は「学校管理下における事故とその予防」でした。詳細については日医雑誌をご参照ください。

山口県看護協会との懇談会を 3 月 23 日（木）に開催しました。医師会からは「当会の看護事業（看護学校）の取り組み」「看護職員の確保及び定着等の対策について」、看護協会からは「准看護師の進学支援について」「老人保健施設・居宅介護施設等に勤務する看護職との連携について」「在宅看取りについて」の協議題が提出され、活発な協議が行われました。協議の中で、看護協会では看護の質の向上を目指し、看護課程の修学年限を現在の 3 年から 4 年への延長、准看護師の看護師へのステップ・アップを推進しているとのこと。また、看護課程卒業後、介護施設や訪問看護ステーションに直ちに就職する看護師の質の担保をどのように確保するかが検討課題となっているとの説明がありました。

3 月 26 日（日）には第 139 回日本医師会臨時代議員会が日医会館で開催されました。冒頭に行われた横倉会長の挨拶は、いつもながら格調の高い内容で感心いたしました。「誕生から死に至る

過程に寄り添い、人々がそれぞれの人生をよりよく生き、あるいは、死にゆくためのお手伝いをします。それこそが、医療の本質的な役割であると考えます。そうした共通認識をもって、人生のさまざまな段階における医療の在り方を議論していくことで、真に必要な医療政策、医療制度の形が見えてまいります」。こういう言葉がすんなりと出てきて、そしてそれを聴いている私たちにも全く違和感を感じさせないのは会長のお人柄によるもので、さすがと思います。なお、本年 10 月には世界医師会会長に就任されます。また、当会の河村康明 会長が中国四国ブロックを代表して、「ICT の利活用により、訪問診療を医療必要度の高い患者に限定すべきで、病状観察等の医療ケアは看護師が担うのが適切である」といった、訪問診療を制限する思惑を含んだ議論がなされていることに対して、日医はどのように考えるか」と質問いたしました。中川日医副会長からは「遠隔診療のツールである ICT は医師の対面診療を補完するものであり、対面診療に取って代わるものではない。医師と患者の信頼関係のもと、診療の補完として、両者に必須の場合のみ活用されるべきである」との回答がありました。代議員会の詳細は日医雑誌 5 月号をご参照ください。

年度末ぎりぎりの 3 月 30 日（木）に**都市医師会生涯教育担当理事協議会**を開催しました。3 月 17 日（金）に日医会館で開催された都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会の報告と、平成 29 年度の山口県医師会生涯教育事業計画についての協議が行われました。日医から専門医の共通講習（医療倫理・感染対策・医療安全等）を都道府県医師会主催で開催してほしいとの依頼があったようです。山口県医師会においても生涯研修セミナーの中のプログラムに加えていく予定です。また、日医が構築している全国医師会研修管理システムの機能が強化・改善されたそうです。医師資格証を保有していれば受講履歴がリアルタイムに確認でき、また、専門医研修証明書や地域包括加算届出用証明書の発行が可能となります。

4 月 6 日（木）開催の本会の**平成 29 年度第 1**

回理事会で、県教育庁学校安全・体育課から当会に対して、「学校におけるがん教育への学校医の協力について」、学校医の協力と都市医師会への周知の依頼があり、協議が行われました。文部科学省のがん教育の在り方に関する検討会等での検討、モデル事業をふまえて、平成 29 年度から学校における「がん教育」を全国展開することとなり、学校医に担当校でのがん教育を行ってほしいとの協力依頼です。趣旨はまことに結構ですが、がん教育を行うのはおそらく学校内科医で、昨年度からの運動器検診に引き続き、さらに負担が大きくなりそうです。今のところ県立学校は謝金・旅費等は学校医報酬に含むとのことで、無料奉仕ということになります。政府は学校関連の予算をもっと増やしていただけないでしょうか。

4 月 7 日（金）に**臨床研修医歓迎会**を ANA クラウンプラザホテル宇部で開催しました。今年は 79 名の研修医が山口大学附属病院及び県内の研修病院に所属することとなりました。県外の大学からのたすき掛け研修の研修医を含め 85 名の研修医と、研修病院の病院長、副院長、研修部長及び山口大学附属病院の先生方 90 名に参加していただきました。「山口県の地域医療のためにがんばりたい」と抱負を語っていた研修医が多数いましたが、初期研修修了後もぜひ山口県に残っていただきたいと思います。

4 月 13 日（木）開催の**山口県医師会地域医療計画委員会**において、平成 30 年度から 35 年度を計画期間とする「第 7 次山口保健医療計画」の策定について、山口県医療政策課から説明がありました。従来は 5 年間であった医療計画の計画期間が、3 年ごとの介護保険事業計画との整合性を確保するために、次期医療計画から 6 年間となります。5 疾病・5 事業のうち、「急性心筋梗塞」が慢性心不全等を含めた「心筋梗塞等の心血管疾患」に見直され、「精神疾患」については、うつ病・躁うつ病、認知症、児童・思春期精神疾患、発達障害、依存症、外傷後ストレス障害、高次脳機能障害、摂食障害、てんかんなど、精神疾患等ごとに詳細に整理することとなっています。今年

11 月までに素案を策定し、審議、パブリックコメントを実施して、来年 5 月に計画策定・公示する予定となっています。当会では「精神疾患」についてはワーキンググループを立ち上げ検討を行っていく予定です。

4 月 15 日(土)の NHK 交響楽団(以下、「N 響」)の定期演奏会を聴いてきました。曲目はアイネムのカプリッチョ、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲(ヴァイオリン:ニコライ・ズナイダー)、マーラーの交響曲第 1 番「巨人」でした。指揮者のファビオ・ルイーゼは初めてですが、小澤征爾の指揮によく似ているように思いました。オーケストラに実に細かく指示を出し、左を向いて第 1 ヴァイオリンを煽ると思うと、右を向いてヴィオラを煽るというように、めまぐるしく身体を動かしながら指揮をします。さて、メインのマーラーの第 1 番ですが、ホルンが 7 管、ティンパニー、大太鼓各 2 台と大編成の交響曲です。かなり細かく情熱を入れ込み、テンポを落として入念に歌いこむ箇所が随所にあるにもかかわらず、重々しかったり粘りすぎたりすることが全くありませんでした。特に第 3 楽章(葬送行進曲)が秀逸でした。第 4 楽章の最後はマーラーの指示通り、ホルンは起立して演奏を行っていました。実はマーラーの

交響曲第 1 番を演奏会で聴くのは初めてで、ホルン演奏者とトロンボーン演奏者が立ち上がって演奏したので、あれっと思って帰ってから調べてみると、マーラーがそのように指示しているとのことでした。ホルンと言えば、以前の日本のオーケストラでは音程が不安定で、時々音がひっくり返るのが当たり前でしたが、最近は全く安定しています。最近の N 響は木管も素晴らしくうまくなっています。特に今回はオーボエが見事でした。東京の演奏会では演奏後のブラヴォーの声と、帰宅のためにすぐに席を立つ人が多いことに少々うんざりしていますが、今回は N 響メンバーの態度には感心しました。鳴り止まぬ拍手の中で、3 回目にルイーゼが舞台に登場したとき、ルイーゼがオーケストラに立ち上がるよう指示しますが、N 響のメンバーは全員がルイーゼに拍手を送り、立ち上がろうとしません。4 回目も同様でした。メンバー全員が指揮者を讃える姿はとても感動的で、これだけでもこの演奏会に来て良かったと思いました。

自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害

保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

あなたにしあわせをつなぐ

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代理店
共栄火災海上保険株式会社 代理店

山 福 株 式 会 社

TEL 083-922-2551